



発行 越谷市立病院  
 発行人 院長 丸木 親  
 編集 院内情報誌編纂委員会  
 連絡先 〒343-8577  
 越谷市東越谷10-32  
 電話 048-965-2221(代)  
 FAX 048-965-3019  
 発行月 令和3年4月  
 (No.47)

## 子ども虐待対応委員会(CPT)の活動について 児童虐待に対する病院の役割

副診療部長兼小児科部長

きのした けいじ  
 木下 恵司

欧米において児童虐待は1960年代から医療的問題として取り組みが進み、日本でも1990年代頃から話題になり始めました。

当院でも以前から「子ども虐待対応委員会の立ち上げ」を期待する声があり、1年間の準備期間を経て、2020年5月より正式に「越谷市立病院 子ども虐待対応委員会(以下、CPT委員会)」が発足しました。

(※CPT: Child Protection Teamの略)

埼玉県では平成28年度より、育児の不安等の軽減や孤立の防止・家庭の養育力の向上・児童虐待の予防を目的として、「妊娠期からの虐待予防強化事業」が開始されました。

精神疾患合併妊婦や若年妊婦、妊婦健診未受診妊婦等を「特定妊婦」として、地域と連携を図り産後も継続的に関わるケースが急増しています。

また国においては、平成30年12月14日に、成長過程にある者及び保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策を総合的に推進する「成育基本法」を公布しました。  
 生産年齢人口の減少していく今日、次世代育成サイクルである「成育」の重要性が喫緊の課題となつていきます。

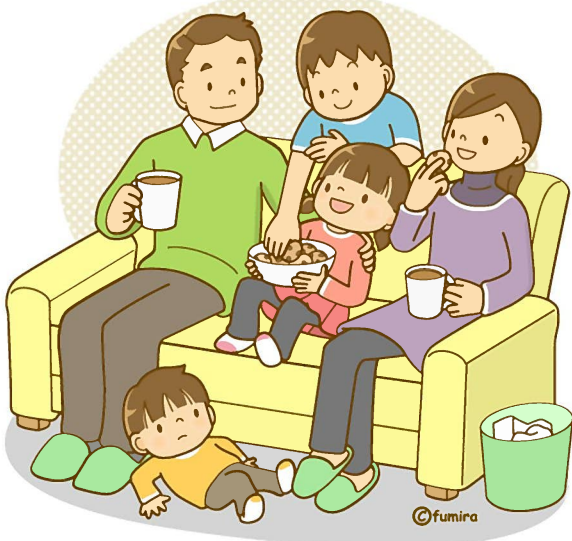
「成育」とは、妊娠期、胎児期、新生児期、乳幼児期、学童・思春期、性成熟期が含まれ、次世代を担う私たちの子孫が健やかに成長発達を遂げ、我が国を受け継いでいく基礎を造り上げることです。

総合病院である当院は、産婦人科、小児科、ソーシャルワーカーが常駐する埼玉東部地域の2次病院であり、上記の成育を推進していく責務があります。

すなわち、0次予防となる「特定妊婦に対する早期支援」、1次予防となる「周産期からの要支援家庭・リスク要因の多い要支援児童などへの早期支援」を行っていくことが求められています。さらに、2次予防である「児童虐待化した事例の早期発見・支援」として、①院内や外来診療で虐待等を認知した際の対応、②近隣の医療機関(診療所等)、児童相談所、保健所、要保護児童対策地域協議会(要対協)からの問い合わせ対応、この2つのケース対応を行うこともあります。いずれの場合もCPT委員会が存在することにより迅速な対応が可能となります。

さらに、CPT委員会の構成員の知識と経験の蓄積により、虐待症例に対する対処、予防のスキルアップが促進され、虐待症例を減少させていく効果につながります。  
 また、他施設のCPT委員会や行政等の関係機関と連携が容易となることにより、当該地域の虐待症例をより減少傾向へ導くことにもつながっていく予定です。

最後に「Child First」を忘れることなく、日常診療に臨み、グレー症例の早期発見と対応に努め、これらの少しずつの積み重ねにより、CPT委員会をさらに成長させ強固な組織にしていこうと考えております。  
 これからも当院のCPT委員会を何卒よろしくお願いたします。



©fumira

## 小児科における子ども虐待対応

7-2病棟看護師長 横川 良子 よこかわ りょうこ

近年、国内の児童虐待件数は増加傾向にあり、2020年の児童相談所通告件数は19万件となっています。

虐待には、殴る・蹴る・強く揺さぶる等の身体的虐待、脅す・無視する・兄弟間の差別をする等の心理的虐待、家に閉じ込める・食事を与えない・病気に患っているのに病院へ連れて行かない等のネグレクト、性的画像を見せる・性器を触るまたは触らせる等の性的虐待があります。

いずれの行為に対しても①予防、②早期発見、早期介入、③保護が重要となります。私たちは、地域の基幹病院として、これら全ての役割を担っていく必要があると考えています。

### 《予防》

まず、第一に予防という観点から考えます。虐待の原因、誘因として、母親の疾患や子どもの育てにくさ（ミルクを飲むのみ時間がかかる、成長発達がゆっくり等）、周囲からの育児支援の希薄などが挙げられます。

当院の未熟児室では32週から37週未満の早産児、2000g未満の低出生体重児、何かしらの疾患を抱えた乳幼児が治療のために入院しています。

面会時間も限られており、母児分離せざるを得ない状況は育児不安を招くと考えられます。その育児不安が少しでも軽減できるように、退院する前に1・2泊程の育児練習日を

設けています。

また、育児支援が希薄であると考えられる場合には保健センター等の関係機関と協議し、児童が安全に健やかに成長できるように支援をしています。

### 《早期発見と早期介入》

第二に早期発見と早期介入という観点を考えます。

虐待は、家の中という「密室」で起きているということ、親側に「虐待をしている」という自覚がなく行われている場合が多くあります。

また、子どもの方も「家族を壊さないように」と自分が辛い状況に遇っていても、それを周りに打ち明けられないこともあります。

このことから、虐待の状況を早期発見することは容易ではないと言われていますが、そのような状況においても、対象者の不自然な傷や表情、言動から「何か気になる」「どこか違和感がある」という視点を持つことでその虐待状況を早期発見し早期介入することに繋がります。

当院の小児科では、虐待を早期発見し早期介入するためには何をどのような点で気にすることが必要なのか、虐待だと感じた時にはどのような行動を取ることが大事なのか、様々な知識を身につけるため2020年からスタッフ間での勉強会を定期的に行っています。

### 《保護》

最後に保護という観点を考えます。

「虐待」という辛い思いをしている子どもは心に深い傷を負っており、それを隠すように外部との接触を酷く抵抗してしまう傾向にあります。そんな彼らが安全、安心に病院を受診し、入

院生活が送れるよう、当院の医師、看護師、ケースワーカー等をはじめ、外部の関係機関等と連携を図り、地域全体で支援体制を構築していくことに努めてまいります。

## 産科における子ども虐待対応

4-2病棟看護師長 草間 靖江 くさま やすえ

超少子高齢化を迎えた現代の日本は、子どもを産み育てることが非常に困難な社会になりつつあります。

「核家族」や「ひとり親世帯」など育児への支援が受けにくい環境は、社会から孤立した親が抱えるストレスを子どもに向かわせてしまい、虐待を招く原因の一つとなってしまいます。

昔から「しつけ」と称した子どもに対する親の暴力は存在していました。しかし、最近では子殺しにまで至ってしまう最悪のケースが多発し、「子ども虐待」が大きな社会問題となっています。

そのような悲劇を予防するために、埼玉県では平成28年度より「妊娠期からの虐待予防事業」が始まりました。

分娩場所である病院と、居住地の保健センターが連携し、妊娠期から支援の輪を広げていく取り組みを行っています。妊娠中の母親が抱える社会的・精神的問題にも焦点を当て、支援が必要と判断したケースに対しては「養育支援連絡票」という連絡票を活用し、地域との情報共有を図っています。

院内では子ども虐待対応委員会（CPT）があり、小児科・救急科と情報を共有し、連携をしています。

産科では、母親に対して妊娠期から分娩・子育て期まで切れ目ない支援を行っています。支援を安心して受けられることは虐待予防にもつながると考えています。母親と最も密に関わることが出来る産科が、CPTに関与しているのはその為です。

母親に対して、出産・育児の知識や技術を伝授することはもちろんのこと、産後の育児支援の確認についても、ひとりひとり丁寧に行っています。

そして、必要に応じて社会資源の活用のための情報提供や地域の保健センター・子育て支援課等との連携を行い、母親が頑張り過ぎず、安心して子育てに取り組めるように支援をしています。

当院では引き続き、育児をする母親が抱える悩みや困り事に寄り添い、相談しやすい環境や体制づくりの心がけていきます。また、地域の関係機関との連携も深め、子どもへの虐待予防に努めてまいります。

育児に対するお困り事がありましたら、ひとりで悩まず、いつでもご相談ください。



## ◆市立病院よりお知らせ◆

### 《産婦人科4-2病棟

公式インスタグラムはじめました!》

このたび、産婦人科4-2病棟公式インスタグラムを開設いたしました。

出産を考えている若い世代の方々や将来看護師や助産師を目指している方々に、当院産婦人科の魅力や特徴を発信していきます。

かわいいうちや当院の助産師の活動など盛り沢山の内容となっております。

ぜひ、お気軽にチェックしてください。また、皆様からの「いいね」や「フォロー」もお待ちしております。

なお、当院の運営利用規約を定めておりますので、ご確認の上ご利用いただけますよう、よろしく願っています。

※詳しい内容は、越谷市立病院ホームページの「キーワード検索」にて『産婦人科インスタグラム』等と検索してください。

### 新採用医師の紹介

○ 令和3年(2021年)1月1日以降

(呼吸器科) 岡本 翔一  
おかもと しょういち

(令和3年1月1日付)

(呼吸器科) 相馬 聡一郎  
そうま そういちろう

(令和3年1月1日付)

## 編集後記

院内情報誌編集委員長 尾羽澤 英子

寒い冬が過ぎ、過ごしやすい春の気候になりましたね。新型コロナウイルス感染症対策は引き続き留意していきましょう。

春は出会いの時期でもあります。新しい学校、新しい職場などで新しいスタートを切った方々も多々いらっしゃるのではないのでしょうか。

皆様にとって、新たな門出が実りあるものになりますよう、心よりお祈りいたします。